



本を読み
人生の根を張る

記事内容は執筆者個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

スクールソーシャルワーカーだより 68

読書のすすめ～再び

時々、報道バラエティー「サンデーモーニング」に出演する、姜尚中かんさんじゅんさんの『悩む力』という本を読んでいます。

知りたいことは何でも瞬時にネット検索できる時代になり、誰もが何でも答えられる時代になったが、果たして賢くなったと言えるのだろうかという意味の文章がありました。

☆

パソコンは、自動的に漢字変換をおこなって、候補から選べば良いだけなので、書けない漢字もすらすらと打ち出してくれます。しかし私は、週に一通は、万年筆を使って下手な字で手紙を書いています。

姜かん先生が、「何でも知っているように装うことが時代の流れだが、それは知識だろうか」と言うのがこの、書ける漢字か、パソコンで打ち出せる漢字かの違いの事だと思います。

つまり、利用できるぼう大な知識が流れている情報化時代だけれど、本来の意味での知識が身につけていない人が圧倒的に増えていると、姜かん先生は言うのです。

★

わたしが再び読書を勧めるのは、生きる上で、いつでも、どの分野からも取り出せる知識を持って欲しいからです。

自分の思い通りには展開しない人生において、知識はとても強力な武器になるからです。

たとえば小説を読むというのは、役者さんがさまざまな人物を演じて、他人のモノの見方、感

じ方、行動の仕方を体験するのに似ていると思うのです。それが人生の厚みを増す事でしょう。

☆☆

近頃耳にする、敏感で繊細な人を言う、“HSP”という用語があります。HSPにとって、姜かん先生が言う情報化時代は生きづらい世の中となりそうです。

なぜなら、見せかけ知識人が自分の人生を、ストリーミング配信で見るとような視点で生きるのに比べてHSPの人は、一つひとつの出来事をダウンロードしながら、大切に生きる、ある意味、不器用な人とも言えるからです。

☆☆☆

HSPの人も、発達課題を持つ人も、今の時代においては、不器用な生き方をしているのかも知れません。

私自身は、たとえ周りから馬鹿にされ、都合よく利用される『損』な生き方で、金持ちにも、有名にもならなくても、自分らしく生きる事が出来るなら、と、この不器用な生き方を選んで来ました。不器用に生きるからこそ、たくさん本を読んで、しっかり根っこを張り、枝を伸ばす必要があると考えるのです。



お子さんを人生の傍観者にさせないよう、本を読ませてあげてください。